

全国9都市でシンポジウムを開催します

昨年5～6月と10月に開催した全国シンポジウムに続き、第3弾として、下記の日程でシンポジウムを開催します。本年中の提示を目指している科学的有望地の位置付けや検討状況、提示後の対話活動の進め方等について、国民の皆さまにお伝えし、ご意見を伺っていきます。是非ご参加を御願いたします。

開催地	開催日	時間	開催場所
東京	5月9日(月)	14:30~17:00	サンケイプラザ
秋田	5月12日(木)	14:30~17:00	秋田ビューホテル
松江	5月14日(土)	14:30~17:00	松江テルサ
高松	5月17日(火)	14:30~17:00	サンポートホール高松
札幌	5月21日(土)	14:30~17:00	札幌コンベンションセンター
福井	5月23日(月)	14:30~17:00	福井県国際交流会館
大分	5月28日(土)	14:30~17:00	大分県消費生活・男女共同参画プラザ
名古屋	6月2日(木)	14:30~17:00	中日パレス
大阪	6月4日(土)	14:30~17:00	グランフロント大阪

参加無料

※全会場13:15から最終処分に関する基本的な内容を紹介します(DVD映像を放映します(60分))

応募方法は
こちらから

<http://www.chisou-sympo.jp/>



知る／学ぶ の機会をつくれます



【地域の皆さまと意見交換させていただきます(NUMO)】

ご希望に応じて、いつでも・どこでも・誰にでも、最終処分に関する情報提供や意見交換などを行います。



【地域の皆様の「学び」をサポートします(NUMO)】

地層処分について理解を深めたいとお考えの方々に対して、地層処分事業に関連する施設の見学や、専門家を招へいた勉強会などの開催を支援します。



【学校などにも訪問します(NUMO)】

NUMO職員が小学校、中学校、高等学校、大学などを訪問し、地層処分について授業を行います。

これらの取組は、「地層処分ポータルサイト」において申込方法等を掲載しております。最新の情報等も随時掲載していますので、ぜひご覧ください。

もっと詳しく

<http://chisoushobun.jp/>



いま改めて考えよう地層処分

高レベル放射性廃棄物の問題を将来に先送りしないよう
一緒に考えましょう

原子力発電に伴って生じる「高レベル放射性廃棄物」は、安定した地下深くに処分することが必要ですが、いまだその処分地が決まっていません。既に発生している以上、将来世代に先送ることなく解決しなければならない問題です。

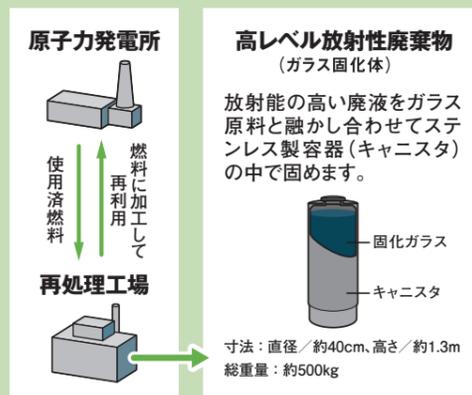
この問題の解決に向け、その最初の一步として、科学的により適性の高い地域(科学的有望地)を提示することとし、現在、専門家による検討が進められています。

こうした点を含めて、地層処分についてご理解を深めていただくため、今後も全国的に様々な情報提供や意見交換等を行っていく予定です。

高レベル放射性廃棄物とは

原子力発電の運転に伴い、使用済燃料が発生します。わが国では、この使用済燃料を再処理し、取り出したウランやプルトニウムを再利用しつつ、廃棄物の量を抑える「核燃料サイクル」を推進する方針です。

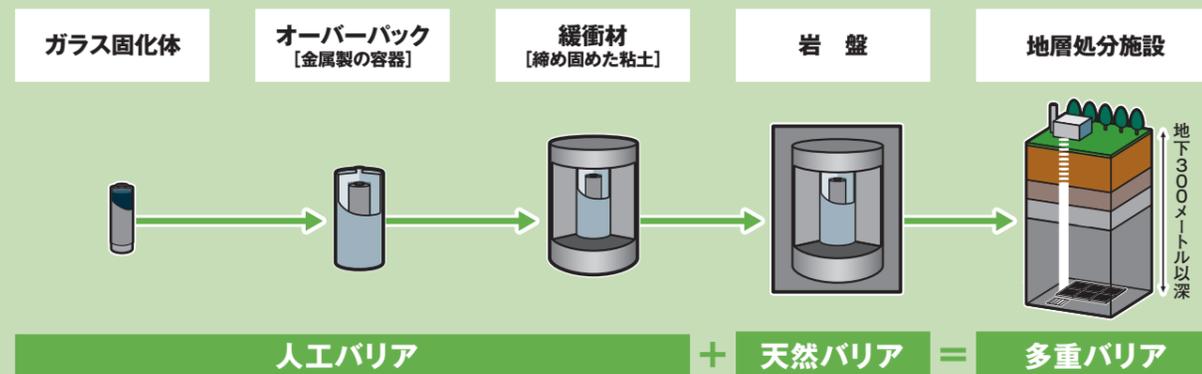
その再処理の際に生じる放射能の高い廃液を、固体化したものが高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)です。わが国には、既に、相当量が発生しています。



地層処分の仕組み

高レベル放射性廃棄物を安全に最終処分するために、国際機関や世界各国で様々な処分方法が検討されてきました。その中で、深い地層が本来もつ「物質を閉じ込める」という性質を利用し、人間の生活環境から安全に隔離する「地層処分」が、国際的に共通した考えとなっています。

わが国でも、ガラス固化体を厚い金属製の容器にしっかり格納した上で、地下深い安定した地層の中に埋設することとしています。



諸外国でも地層処分が採用されています



法律に基づき、地層処分の事業実施主体として原子力発電環境整備機構 (NUMO) が設立され、2002年から処分地選定の調査受入れ自治体を公募してきました。しかしながら、今に至るまで応募が得られず、調査に着手できていません。

政策の見直しを行い、平成27年5月に新たな方針を決定しました

国民の皆さまや地域の理解を得られるよう、国が前面に立って取り組みます



1 処分地選定に向けた第一歩として、科学的な観点からより適性の高い地域を「科学的有望地」として示していく予定です。

火山国・地震国といわれる日本でも、地層処分に適した場所は広く存在することが、長年の研究の成果として示されています。処分地選定に向けた第一歩として、科学的な観点からより適性の高い地域(科学的有望地)を国として提示することとし、現在、その要件や基準の検討が、専門家の参加する審議会において進められています。

科学的有望地は、特定の地域をピンポイントで示すようなものにはなりません。

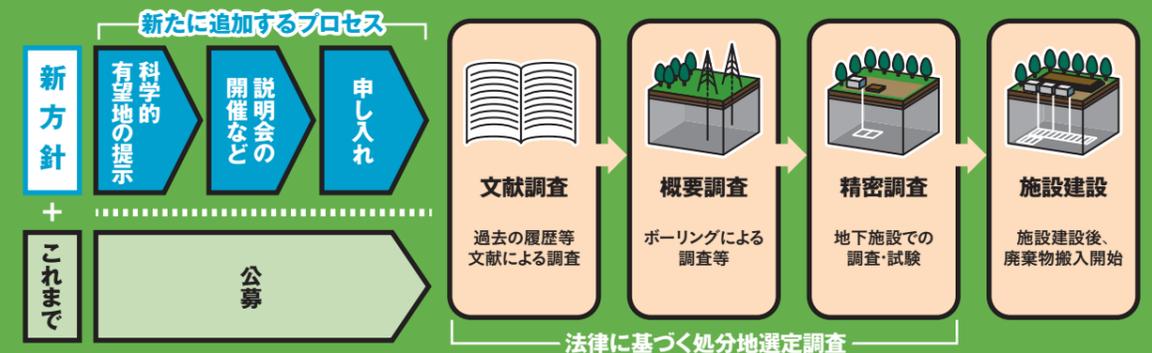
2 科学的有望地は、国民的な議論を始める契機として提示するものです。一歩ずつ、国民の皆さまや地域の方々との対話活動に取り組みます。

科学的有望地の提示は、地層処分に対する各地域の適性を客観的に示しつつ、最終処分問題を広く国民の皆さまに認識・理解いただくためのきっかけとするものです。

国とNUMOは、科学的有望地の提示後も、まずは全国各地の方々に関心を持っていただき、理解を深めていただけることを目指して、対話活動を一歩ずつ進めていきます。

3 対話活動を通じて地域で理解を深めていただくことが何より重要です。そうした取組なくして、直ちに調査の受入れをお願いすることはありません。

説明や対話を重ねていく中で、関心を持って頂ける方々には、継続的に学んでいただける機会を提供・支援してまいります。こうした取組を通じ、地層処分に関する理解を深めていただいた上で、その進捗等を踏まえて、将来的には調査への協力について国から自治体に対してお願いすること(申し入れ)を目指しています。



昨年(平成27年)12月に最終処分関係閣僚会議を開催し、「科学的有望地について、地層処分の実現に至る長い道のりの最初の一步として国民や地域に冷静に受け止められる環境を整えた上で、平成28年中の提示を目指す」としました。